

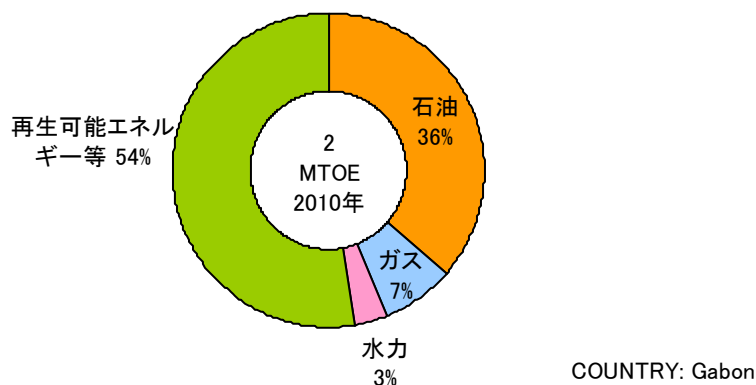
5-10 ガボン

1. サマリー

1. エネルギー事情

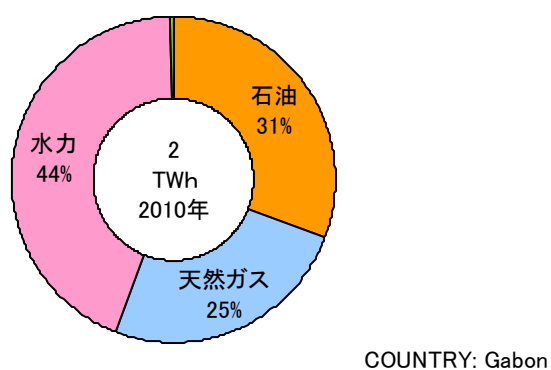
- (1) 一次エネルギー供給量(2010年) : 2.13 百万 TOE (日本の 0.4%)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量(2010年) : 1.42TOE (日本の 32.9%)
- (3) エネルギー自給率(2010年) : 670%
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量(2010年) : 2.65 百万 CO₂ 換算 ton (日本の 0.2%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量(2010年) : 1.76CO₂ 換算 ton (日本の 19.6%)
- (6) エネルギー源別可採年数(2011年末) : 原油 41.2 年、天然ガス na

一次エネルギー供給構成 (2010年)



(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition

発電電力量構成 (2010年)



(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- ガボンの主要エネルギー担当機関は、鉱山・石油・炭化水素省 (Ministère des Mines, du Pétrole et des Hydrocarbures) と、エネルギー・水資源省 (Ministère de l'Énergie et des Ressources hydrauliques) である。

(2) 基本政策

- ガボンは、国内の石油埋蔵量と生産量を引き上げるため、積極的に外資を導入している。1983年の「鉱業法」改正によって、探鉱・生産物分与契約 (Exploration and Production Sharing Contract : EPSC) が導入されている。また、税制面での優遇措置は時宜に見合った形で外資にインセンティブが与えられるよう、コンスタントに見直しがなされている。石油・ガスのエネルギー分野におけるガボン政府の政策として、以下の3点 (石油・ガス開発に対する外資導入の促進、油田からの最大限の原油生産、天然ガスの有効活用) が挙げられる。

(3) 最近の動向

- ガボン政府は、2009年内に実施する予定だった第10回の鉱区開放を2010年5月5日実施へと、更に2010年10月27日へと再延期していた。その後2010年10月14日に突如、石油省は鉱区解放の手続きを無期延期すると発表した。その背景は2010年4月のメキシコ湾で発生したBPのリグ爆発事故にあり、深海海底鉱区を含む今回の鉱区開放で同様の事故が起こらないよう、安全や環境に関する規則を立案するためとされている。このライセンス・ラウンドによる鉱区開放に代わり、現在では個別に外資と鉱区の交渉が行なわれている。
- またガボン政府の石油大臣と労働大臣は2010年10月1日、石油産業労働組合 (National Organization of Petroleum Workers : ONEP) との間で、労働環境の改善 (Local Content Requirement) について合意書を取り交わした。改善項目は、エネルギー産業における外国人労働者の就業割合を10%にとどめること、全役員ポストをガボン国籍の国民に与えることとなっており、2011年4月にはこれが守られていないとしてエネルギー産業で大規模なストライキが発生している。

3. 日本とエネルギー分野における関係

- 石油連盟の原油輸入統計では、わが国は2010年度にガボンからの輸入実績はないが、2011年6月にRabi Light原油を約98千KL輸入している。また、2009年1月26日、三菱商事が西アフリカのガボン沖合で新たな油田を発見する等の例もあり、ガボンは門戸が開かれている産油国として、日本の石油会社にとって、参加について検討の価値がある国である。

2. 主要エネルギー指標

(2010年)

(1)	一次エネルギー供給量	2.13 百万 TOE トン
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	1.42 TOE/人
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給	0.22 TOE/千\$
(4)	エネルギー自給率	670 %
(5)	エネルギー起源 CO2 排出量	2.65 百万 CO ₂ 換算 ton
(6)	一人当りエネルギー起源 CO2 排出量	1.76 CO ₂ 換算 ton/人
(7)	エネルギー源別構成率	
	石炭	0 %
	石油	36 %
	ガス	7 %
	原子力	0 %
	水力	3 %
	再生可能エネルギー等	54 %
(8)	エネルギーの輸入依存度	-570 %
(9)	石油の輸入依存度	-1,566 %
(10)	輸入原油の中東依存度	- %
(11)	原油輸入先	
	第1位	-
	第2位	-
	第3位	-

(出所) (1) ~ (4) 及び (7) は IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition

(5) ~ (6) は IEA, CO₂ Emissions from Fuel Combustion, 2012 Edition